

# こちら奈良市

## 東部出張所です

〜未来のために今できること〜

第35号

令和2年2月1日発行

編集・発行 奈良市東部出張所  
奈良市大柳生町4735  
TEL 93-0001  
FAX 93-0061

こんにちは。東部出張所の南浦です。今年は何年になく暖冬の兆しですが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

さて、先月1月11日の早朝に、奈良市消防団大柳生分団主催による消防出初式が、分団の士気高揚を目指し旧興東中学校体育館及びグラウンドで開催されました。大柳生分団からは55名の団員の出動のもと、地元連合会長をはじめ自治会や行政の代表者の参加により、盛大に式典及び放水演習が実施されました。

式典では、来賓祝辞をはじめ分団長・連合会長から感謝状の贈呈が行われました。続く放水演習では、班単位で可搬式ポンプによる一斉放水が行われ、グラウンドには大きな水のアーチが描かれました。

地域の消防団員は、皆さんもご存じのとおり非常勤特別職の公務員である一方、他に本業を持ちながら活動を行っておられます。活動の中心は、消防器具の点検整備や防災訓練での指導、警報発令時に地域内の巡視や年末特別警戒など、多岐にわたる活動を昼夜問わず実施されています。東部地域において、我がふるさとに愛着を持ち、縁の下から支えてくださる方々の活動に、感謝の気持ちでいっぱいになる思いでした。これからも、地域の安心・安全のためによろしくお願ひします。

さて、今年も東部出張所では、親切で丁寧な窓口業務の充実と、地域の方々が生き生きと暮らしていただけるよう、職員一同取り組みますのでご理解と協力をよろしくお願ひします。



## 生活の豆知識

みなさまは2月といえば何を思い浮かべますか？ 秋はやはり「節分」でしょうか。節分の翌朝、住宅街のそこかしこで「豆まきの跡が見られる」となるとなく、ほっこりした気持ちになります。今回は、その「節分」に関するお話です。

節分とは文字通り「季節の分かれ目」のことです。季節の節目は「邪気」が入りつきやすいとされていたため、豆をまいて厄払いをするようになったのが始まりです。ではなぜ、豆なのか？ それはヒト



の命を支える『五穀』(米・麦・粟・豆・黍)の中でも大豆が一番大きく、力が強いと考えられていたからです。また、「魔(ま)を滅(め)する」豆」という意味も込められていて、炒った豆を使うのも「魔の目を射る」に通じるからです。何事においても意味があつて面白いですね。

また、「豆まきをせずとも邪気を寄せ付けない、強い名前があるのを」ご存知でしょうか。それは「ワタナベ」さんです。かつて、平安時代に渡辺綱(わたなべのつな)という武將が、京都を拠点としていた鬼の頭領、酒吞童子やその配下の茨木童子を圧倒し退治したため、鬼は渡辺一門を恐れるようになり、「ワタナベ」性の子孫にも近付かなくなった、という話です。もし豆まきをするにしても、「ワタナベさんは「福は内」だけでいいかもしれませぬ。うらやましい限りです。

という事で、今回は豆知識回でした。今年1年、みなさまに多くの福が訪れることを心より願っております。

## 東部出張所 職員のコーナー

こんにちは。東部出張所振興係の田中です。出張所勤務は2年目になりました。少し自己紹介をさせて頂きますと、生まれ・育ちは神戸(有馬温泉の近く)で大学卒業後は民間で営業職をしていました。2人目の子供が生まれるタイミングで奈良市に縁があり、今に至ります。

現在は振興係の一員として、東部地域の振興という大きなミッションのもと職務に励んでおります。一言に振興といっても、交通、農業、教育、医療、福祉など皆さんの生活に関わることは、多分野に及んでいて毎日学ぶことばかりです。

今行っている中心的な仕事は、「さとやま民泊」事業といえます。何度かこの誌面で紹介させて頂いておりますが、宿泊だけでなく東部地域に従来からある手仕事や食などの体験を組み合わせて発信し、東部地域に興味をもち、関わってくれる人を増やそうとする事業です。地域での認知や、メディアや旅行者からの問い合わせも少しずつ増えてきました。地域に住んでいると、「ごく日常の出来事でも、外の人間にとっては非日常や異日常の体験だ」と感じてもらっています。

まだまだ皆さんのアイデアで面白い取り組みができると思っておりますので、例えば、祭りに外国人を呼んでみたいとか、人を泊めてみたいとか、地域にまつわる郷土料理を多くの人にたべてもらいたいなどお気軽にお声がけください。

※こちらに掲載の情報は編集の都合上、1月15日現在のものになります。

